

経営相談 Q & A

「収益性分析」の基本と全体像について

Q

当社は、毎期決算書を作成しているものの、実際のところは形ばかりで、決算の内容について細かく分析することなくこれまで来てしまいました。

今後は財務指標を意識した経営に変えていきたいと考えており、まずは収益性の分析について、基本となる枠組みや全体像を教えてくださいませんか？

A

収益性分析とは、企業が自らの集めた資本をどれだけ効率的に運用して利益に結びつけているかについて分析することをいいます。

構造を通してその企業の本来の収益力を判断する指標です。

売上高経常利益率を上げるためには、①売上原価を抑える、②販管費を抑える、③金融費用を抑えるなど、業務全般においてコスト削減に努め、儲ける仕組みを作る必要があります。

1. 「総資本経常利益率」が分析のスタート

最も基本となる指標が「総資本経常利益率」で、これが収益性分析のスタートとなります（図表1）。総資本に対する経常利益の割合を示す指標で、いくらの資本を使ってどれだけ儲けたか、すなわち「利益を稼ぎ出す総合力の分析」といえます。

この総資本経常利益率は、売上高で展開すると、さらに「売上高経常利益率」と「総資本回転率」に分解することができます（図表1の右辺）。

総資本経常利益率は高ければ高いほどいいとされており、この指標の改善を図るには、売上高経常利益率と総資本回転率のどちらか、もしくは両方を改善すればよいことになります。

3. 「総資本回転率」（資本効率を見る指標）

総資本に対する売上高の割合のことで、資本の運用効率を見る指標です。

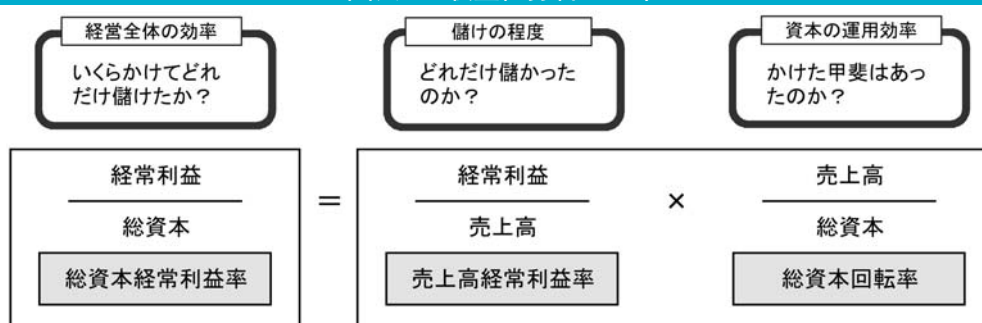
企業は集めた資本を使って、商品、原料、機械などの資産を手に入れます。そしてその資産を使い売上に結び付け、また資産を手に入れ売上を上げるというサイクルを繰り返します。総資本回転率はこのサイクルの回数を示すもので、回転率が高ければ高いほど、効率的に資本を運用できていることになります。

総資本回転率を上げるためには、①分母である総資本（または総資産）の圧縮に努め、②同時に積極的な販売戦略などによって分子の売上高を増加させることが必要となります。

2. 「売上高経常利益率」（費用構造を見る指標）

売上高に対する経常利益の割合のことで、費用

図表1 収益性分析の基本



4. さらに掘り下げて収益性分析を進める

図表2は収益性分析の体系図を示したものです
が、問題点がどこにあるか細かく見るために、前
述の指標をさらに右へと掘り下げていきます。

前述のように、①売上高経常利益率が悪い原因
が、売上原価、販管費、支払金融費用のどこにあ
るのか、②総資本回転率が悪い原因が、売上債権
の未回収、不良在庫の滞留、不要固定資産の存在
等のどこにあるのか、などといった原因の追及が
可能になります。

5. 収益性分析値の使い方

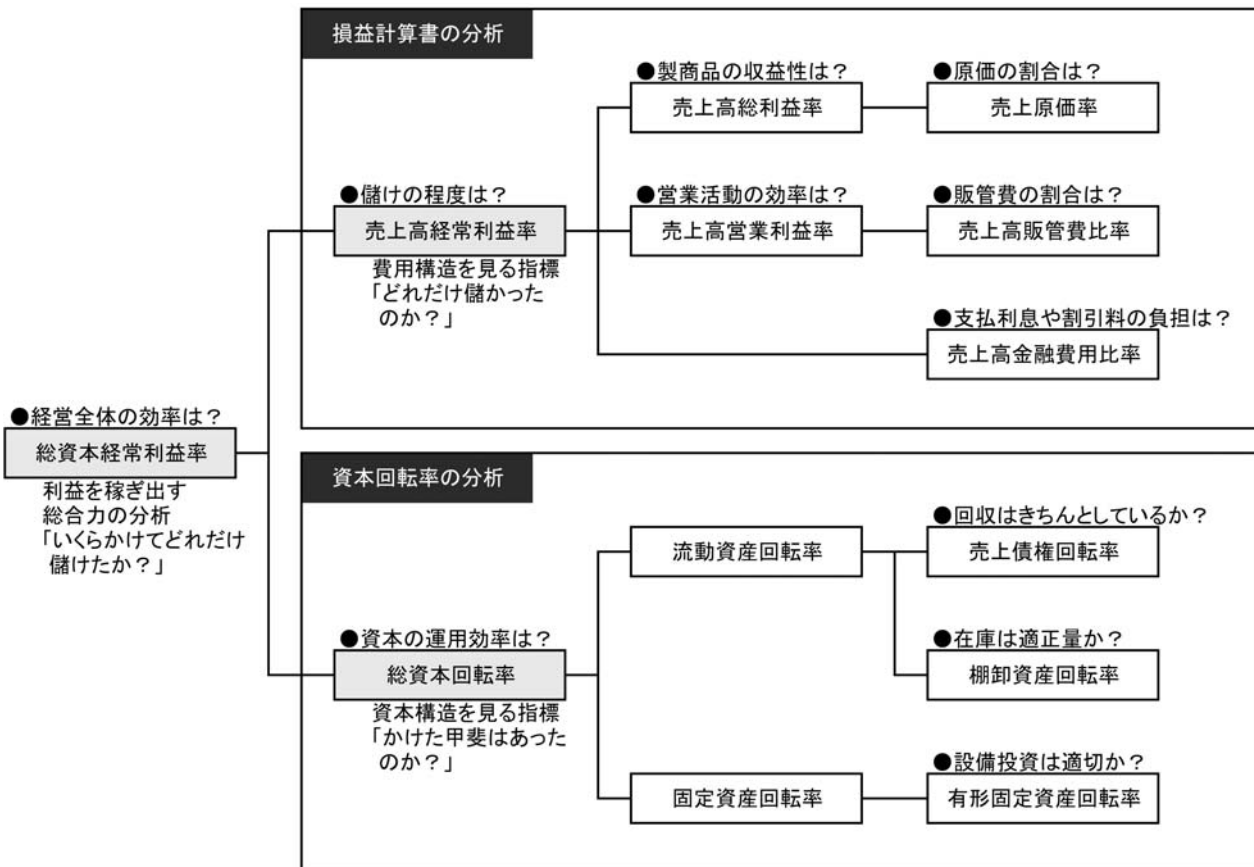
以上の計算から得られた指標の値を、業界平均
もしくは同業他社と比較し、自社の相対的な位置
を確認して改善を図ります。

図表3に、中小企業庁が毎年実施する「中小企
業実態基本調査」の平成24年分結果（速報）の
一部抜粋を参考に掲げています。また、「TKC 経
営指標」（TKC 全国会）なども参考になります。

各業界の平均的な指標は金融機関でも情報提供
していますので、お気軽にお尋ねください。

（吉村謙一）

図表2 収益性分析の体系図



図表3 中小企業の財務指標平均（一部抜粋）

	合計	製造業	卸売業	小売業	建設業	不動産業、 物品賃貸業	運輸業、郵 便業	宿泊業、飲 食サービス業	生活関連 サービス業、 娯楽業	サービス業	情報通信 業
総資本経常利益率(%)	2.79	3.18	2.98	2.68	1.81	2.25	2.31	0.52	3.91	4.21	4.27
売上高経常利益率(%)	2.35	2.99	1.66	1.52	1.41	6.36	2.03	0.53	2.88	3.11	3.69
売上高総利益率(%)	25.03	20.81	16.31	28.55	20.10	46.29	23.89	64.31	29.03	39.66	43.22
売上高営業利益率(%)	2.04	2.76	1.46	1.03	1.07	7.09	1.37	-	2.34	2.42	3.33
売上高販管費比率(%)	22.99	18.05	14.86	27.52	19.03	39.20	22.52	64.56	26.69	37.24	39.89
総資本回転率(回)	1.19	1.07	1.79	1.76	1.28	0.35	1.14	0.97	1.36	1.35	1.16

出典：中小企業庁「平成24年 中小企業実態基本調査」